令和元年度　第１回横浜市障害者就労支援推進会議　議事録	
日時	令和元年８月１日(木)　14 時 00 分～16 時 00 分
場所	横浜市健康福祉局障害福祉部内大会議室
出席者	眞保委員長、石川委員、堀合委員、広沢委員、多田委員、伊藤委員、中谷委員、田中委員、八木下委員、飯田委員、後藤委員、岡野委員、下風委員
欠席者	なし
開催形態	公開
議題	１　開会、趣旨説明 ２　委員紹介、委員長選出 ３　議事 (1)　報告 令和元年度　横浜市障害者就労支援事業について (2)　議題・報告 障害者就労支援センターについて ・障害者就労支援センター事業の取組状況について ・障害者就労支援センターにおける自己点検及び有識者ヒアリングの実施について (3)　報告 ア　第４期横浜市障害者プラン策定について イ　障害者共同受注・優先調達推進事業について ・横浜市障害者共同受注センターについて ・横浜市障害者優先調達について ウ　障害者就労啓発事業について ・企業啓発事業について ・施設職員を対象とした就業体験研修について ・横浜市役所における障害者雇用事業について ・新市庁舎ふれあいショップ及びＪＲ関内駅北口就労啓発施設を活用した地域ネットワーク形成について ４　その他意見交換 ５　閉会
決定事項	推薦により、眞保委員を委員長として選出。
議事	１　開会、趣旨説明 （障害福祉部長より挨拶） 【事務局】（資料１に沿って説明） ２　委員紹介、委員長選出 （各委員より自己紹介） 【事務局】委員長を選出いただきたい。

	【広沢委員】学識経験者であり、昨年度も委員長をされた眞保委員を推薦したいが、どうか。 【事務局】みなさん、よろしいか。（全会一致） ３　議事 （1）　報告 　　令和元年度　横浜市障害者就労支援事業について 【事務局】（資料２に沿って説明） （2）　議題・報告 　　障害者就労支援センターについて ・障害者就労支援センター事業の取組状況について 【事務局】（資料３及び４に沿って説明） 【広沢委員】事務局から説明いただいた内容に補足させていただくと、地域での発信ということで、昨年度は各区の自立支援協議会に参加し、身近な相談機関としての就労支援センターの業務を知ってもらうということで活動してきた。ただ、自立支援協議会の中で、なかなかキーワードとして就労が出てこない。生活面が中心。就労は暗礁に乗り上げている。職員の人材育成については、今年度の取組の目玉の一つとして、就労支援に理解のある精神科医を講師に、精神医学を学びながら精神障害者の就労支援を進めていくという研修を実施することになった。背景としては、精神障害や発達障害のある方は、就職しても単年度で辞めてしまうことがある。個人的な感覚ではあるが、引きこもりの方の相談が多く、引きこもって３年という方から 20 年くらいという方までいる。70 代 80 代のご両親から「うちの子を就職させたい」といった相談がある。従来の専門分野ごとの支援ではうまく進められない。関係機関とのネットワークや地域連携といった総合的な体制作りを急ぐ必要があると感じている。一方、働く障害のある人が増えている。10 年 20 年といかに長く働けるか、モチベーションをどう維持していくか、定着支援の中で苦慮しているところ。「仕事がつまらない、辞めたい」と言う人がいる。毎朝「辞めたい」と連絡をしてくる人もいる。どうやってやる気にさせるか、日々対応している。中には、毎日元気に働いている人もいるので、「元気に働いている理由は何？」と聞いてみたことがある。ある人は週末に池袋までコスプレに行くのが楽しみ、ある人は秋葉原でアイドルに会うのが楽しみといったように、働いたお金を趣味に費やしている人もいる。アイドルの笑顔に癒されていて元気が出ているといった話も聞いている。辞めたいと言っている人は趣味がなく、自宅と就労先の往復のみで、生活がそれのみ。それが、アイドルやコスプレなど、そういった「生きがい」のために働くことを提案して、うまくはまって、辞めたいと言わなくなった方もいる。 【石川委員】アイドルが好きな人は多い。 【広沢委員】働く意欲、生きる意欲を取り戻す場面に立ち会えたのは、支援者冥利に尽きる。 【眞保委員長】今年度の取組として、関係機関との連携や、就労支援センターを紹介するリーフレット作成を計画しているが、医療機関との連携を強化したいということで、後藤委員のご意見を伺いたい。 【後藤委員】リーフレットには就労支援センターの余暇支援について載せると良いのではないか。デイケアを利用している方で、仕事の後にナイトケアに来ている人がいたり、週末の

	みデイケアに来て、仕事への活力にしている利用者もいる。 【広沢委員】うちの就労支援センターでは、２か月に１回、アニメなど、３つのグループに分かれて余暇支援を行っている。 【後藤委員】アニメとアイドルの力はすごいが、アイドルにお金をつぎ込みすぎて借金を抱えてしまうケースもあるので、バランスが大切。 【多田委員】移行支援事業所として、就労支援センターとは普段から連携を取っている。昨年度から定着支援事業も始まったが、それより以前は定着支援の部分で特に連携を取ってきた。リーフレットについては、事業所向けに一次相談がどういったものなのか伝わりやすくなっていると良い。就労支援センターと連携を図っていきたい一方で迷惑をかけたくないと思っている。一緒に支援の方向性について相談できるのは安心できる。 【眞保委員長】移行支援事業所等の支援者が就労支援センターに一次相談するという利用もあるのか。 【多田委員】そのように理解している。就労支援センターは労働関係などの経験が豊富なので、非常に助かる。定着支援の中で、移行支援事業所の支援者では労務の知識が少なく、本人に不利にならないように企業にアプローチする方法などを相談したことがある。 【眞保委員長】事業所への支援ということもリーフレットに載っていると広がりがあってよい。 【伊藤委員】横浜市が国に先んじて就労支援センター事業を進めているのは助かっているが、今は機能が混乱しているところがある。区役所のケースワーカーがいて、サービスにつながっていない人は基幹相談支援センター、サービスにつながっている人は計画相談支援事業所、さらに就労支援センターでも一次相談をやっているとなると周知が大変。トータル的な横浜市の機関の機能整理は長い期間で考えた方が良いのでは。就労支援事業所も、就労支援センターと良好な関係を築かせてもらっていて、就労支援センターが事業所に実習に来る企画を立ててくれている。福祉につなぐケースも増えており、就労支援センターの職員も福祉を知らなければということで、コラボしている。リーフレットについては、ターゲットをどこにするのか、誰が対象なのかを明確にした方が良い。本人向け、支援者向けで同一の内容であっても、違いを出して分けた方がいいのでは。 【眞保委員】そういったところは多分に出てきていて、プロフェッショナルの視点ではすみわけは必要だと思うが、一市民の視点からすると実は手近なところに相談に行くので、すみわけは必要ないのではないか。引きこもっている人の保護者からすれば、移行支援事業所を調べると「障害者」と書かれているため、「障害者ではないわが子」ということで、就労支援センターや基幹相談をまず頼ると思う。そこから、プロフェッショナルがどうすみわけを考えて支援していくかだと思うので、市民にそこまで考えさせるかどうかは、検討が必要。 【飯田委員】内容的なものではないが、私は文字ばかりのものではなく、フローチャートやポンチ絵のようなものになっていて、「今ここにいるよね」「そうしたらこういう方向性があるよね」と説明できると、利用者に説明しやすいと思う。作りとして説明しやすいものがいい。言葉よりも図を描いて説明している現状がある。聞いたのではわからないが、見たものを写真で撮って持ち帰る利用者もいる。工夫していただけるとありがたい。 【眞保委員長】「あなたは今ここにいます」といった、ケースごとの書き方もどうか。

	【八木下委員】リーフレットは見やすさが大事だと思う。より具体的でパッと見でわかるものが良いのではないか。在学中に就労支援センターと直接繋がりがある例は少ない。卒業して企業就労の決まった方について、家庭での支援が難しかったり、企業が初めて障害者雇用をするといったときに、一次相談的なことを就労支援センターにお願いしている。そのときに情報提供書を学校で書いて保護者の方の了承を得て、それをもとに相談している。学校主導なので、保護者の方はどういうケースだと就労支援センターを利用できるのか、よく分かっていない。本当に困った状況になって初めて、保護者や企業から「もう辞めそうです」といったことを急に言われる。リーフレットの中に分かりやすい事例が載っていると、就労支援センターの仕組みが良くわかるのでは。よろず相談ではないので、ポイントをしぼり、うまく事例を選ぶ必要がある。 【眞保委員長】「こういう相談に載れます」「こんなときに利用できます」といった、ケースごとに載せるのも良いのではないか。 【田中委員】利用者からよく聞かれるのは、この相談はどこに相談するのか、窓口がわからないということだ。わからないながらとりあえず相談に行ってもらう。それがたくさんあるのが横浜市のいいところ。一か所で抱え込まずに協力し合う。リーフレットも事例や連携イメージを持てるものだといい。 【石川委員】利用者は相談のハードルが高い。たらいまわしにされる印象がある。利用者、保護者にもわかるようなものがあるといい。 ・障害者就労支援センターにおける自己点検及び有識者ヒアリングの実施について（報告） 【事務局】（資料５及び６に沿って説明） 毎年の有識者ヒアリング、自己点検の内容について、この委員会の委員に有識者としてヒアリングを行っていただいている。今年度は上大岡、日吉の２センターを予定しており、同行をお願いする委員については、個別に連絡する予定。 (3) 報告 ア　第４期横浜市障害者プラン策定について イ　障害者共同受注・優先調達推進事業について ・横浜市障害者共同受注センターについて ・横浜市障害者優先調達について ウ　障害者就労啓発事業について ・企業啓発事業について ・施設職員を対象とした就業体験研修について ・横浜市役所における障害者雇用事業について ・新市庁舎ふれあいショップ及びＪＲ関内駅北口就労啓発施設を活用した地域ネットワーク形成について 【事務局】（資料７～16 に沿って説明）

	４　その他意見交換 ＜イ　障害者共同受注・優先調達推進事業について＞ 【眞保委員長】 数年前の会議の際に、共同受注センターのピンク色のリーフレットについて、在庫が無くなり次第、もっと企業発注に繋がるような内容に変えてほしいと伝えた。再度、申し送りする。たくさん印刷に出した方がコストは下がるので一定程度の量を印刷していると思うが、更新のタイミングで検討していただきたい。 【下風委員】事業所への発注というよりも、障害者の採用の方で考えていることが多い。横浜市内に限らず、就労継続支援Ｂ型事業所のクッキー、ラスク、チョコレート、コーヒーなどの製品を弊社の店舗で販売してもらっている。現在も継続して行っている。毎月 100 個の売り上げでも、10 店舗あれば 1,000 個の売り上げになり、一年間での影響は相当大きいと思われる。 事業所への発注に関しては、採用部署が窓口になる。障害者雇用をまず考えて、出来る限り社内で仕事をまとめて、短時間で良いので１つの仕事を企業が責任をもってその方に作業を行ってもらうので良いと思う。ただ、小さい会社だと社内で仕事をかき集めても１人分の仕事にならないことがある。そういった場合は、事業所へ仕事を依頼するということも大切だと思う。弊社では、仕事をまとめ、障害者を採用することを念頭においている。 【岡野委員】仕事の切り出しについては、小さな会社なのでそんなにない。建設業なので現場で生かせると良いのだが、安全対策面でハードルが高い。スキャニングの仕事を近くの事業所に毎日のように来てもらって、行っている。年賀状などまとまった仕事があるときにもお願いしている。お中元・お歳暮も同様で、ショコラボやどんぐりのドーナツの商品は反応が良い。「良いものを送ってくれて」と言われる。事業所の方が自分たちの思いを手書きで書いたものを印刷して同封してくれると、「栄港さんはこういうことを意識しているのですね」と言われる。わずかなことでも心がけて、会社のスタッフが行っている。もっと広がっていくと良いと思う。ただ、送る側としては、パンフレットのようにおしゃれなものになっていないと、継続して送るのは難しい。ショコラボのチョコレートは高島屋ですぐに売り切れるほど、意識が高い品質なので、安心して送れる。 障害者が作ったとか関係なく「買いたい」と思える商品でないと購入は難しい。行政が補助金などをだして、パッケージのアドバイスなどノウハウの支援を事業所に行えば、もっと販売力が上がる。土俵に上げるまでの支援があったら良い。 ＜ウ　障害者就労啓発事業について＞ （施設職員を対象とした就業体験研修について） 【堀合委員】今年度は他の職員が参加。一昨年は私が参加した。一言でいうと、良かった。憧れの企業に行けた。アドバイスをしてくれる中心的な人の仕事ぶりを見て刺激になった。ぜひたくさんの人に経験してもらいたい。もっと大きな事業にしても良いのでは。 （新市庁舎ふれあいショップ及びＪＲ関内駅北口就労啓発施設を活用した地域ネットワーク形成について）

	【石川委員】障害者雇用の枠が増えるのはありがたい。どういう方向で啓発していくのか。 【眞保委員長】すごくいい場所にできるそうだ。職員が出勤時に必ず通るフロアでもある。人が行き交う場所に設置されることで啓発になるのでは。 【石川委員】アンバサダーは市職員のことか。 【事務局】アンバサダーは広い意味で使っている。市職員に限らずお客様としてショップを利用するのも一つの協力の仕方であるし、ショップで売っているものを購入するという関わり方もアンバサダーとしての協力の一つである。 【石川委員】関内駅北口施設や新市庁舎ショップの運営時間は？ 【事務局】運営事業者が検討しているところであり、まだ具体的には決まっていない。新市庁舎も同じく具体的には決まっていない。新市庁舎のショップに関しては現在運営者公募をしているところ。 【石川委員】素敵なものになることを期待している。 【中谷委員】地域住民への障害理解の促進についての取組をどうするか悩んでいるので、いい形にネットワークができるといい。障害者が普通に地域の一員として暮らしている、働いていることをどう知ってもらうかが肝心だと思う。本人たちも知ってほしいと思っている。それが発信できるといい。 ５　閉会 【事務局】次回は２月の開催を予定している。